

## 会 議 等 結 果 報 告 書

名 称	第2回観光開発審議会
日 時	令和5年12月12日(火) 18時00分～19時55分
場 所	役場3階第2会議室
出席者	委員：青野範子、伊藤仁敏、遠藤純、西木晴彦、加藤祐一、菊地昭男、野口雅史 町：企画商工観光課長、担当主幹、担当主事
内 容	<p>●開会（企画商工観光課長）</p> <p>1 開会挨拶（青野会長）</p> <p>2 議事 議案に沿って各章に区切って事務局より説明</p> <p>【質疑応答】</p> <p>&lt;第1章&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul> <p>&lt;第2章&gt;</p> <p>（加藤委員）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上富良野の魅力である「山」を活用できていない。近隣で活用しているのは富良野であり、「富良野」というブランドを確立している。日の出公園の結婚式など、町外の人をうまく呼び込むことが重要。</li> </ul> <p>危機感が足りない。観光資源が極端に限られていても何万人もの入込がある地域も見受けられる。</p> <p>八景であるジェットコースターの路は、シーニックバイウェイでデッキを設置したが、交通障害が発生したことでデッキを撤去した。結局観光客は減らなかった。もっと国や道と連携が必要。</p> <p>&lt;第3章&gt;</p> <p>（西木委員）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数値目標について、全体の観光入込客数に対して宿泊客数の割合が小さくなっている。一過性の観光客を呼び込むという風にも見えるが。</li> </ul> <p>→そのような見方は想定していなかった。宿泊のキャパシティがオーバーしている現状もあるが、第6次上富良野町総合計画の数値に基づいておりこの数値とした。</p> <p>（伊藤委員）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域おこし協力隊がロケツアーリズム推進に係る業務を担当しているかと思うが、かなりの宣伝効果がある。今の時代に必須のコンテンツであるSNSは確実に活用するべきだし、マスメディアに訴えかける場所を発掘することが重要。うまく宣伝することが大切。</li> </ul>

ジェットコースターの路は町が整備すべき。とにかく話題を作らなければいつまでも通過型のまま。

(菊地委員)

- ・数値目標は第6次総合計画とリンクしているとのことだし、実際にはなかなかこの数値にはならないかと思うが、あくまでも目標・計画という点でこの数値でよい。

(伊藤委員)

- ・今の宿泊のキャパシティを増やすのは事業者にとっては難しく、例えばラベンダーフェスタかみふらのなどのイベントの際には富良野のホテルへ送迎バスを運行させるなどはどうか。

総合的に見て、当町の飲食店の味は他地域にも負けないほど美味しい。

#### <第4章>

(加藤委員)

- ・過去の反省に基づく方向性についての記載内容はよいかと思う。

(伊藤委員)

- ・ジェットコースターの路は、観光に力を入れるなら絶対に整備すべき。この問題はずっと先送りになっている。生産者の視点では、畑の狭い面積は不要であり、一部を観光用に利用させてもらおうとよい。あとは整備するためにどれだけの面積が必要なのか。溝を作って農業者と観光客の区分けをしてもよい。

→理想としては、畑を全面借り受けて、ラベンダー畑を展開できれば。観光の面ではもちろん、原料としての活用も可能。畑の一部を借り受ける交渉はハードルが高い。

(伊藤委員)

- ・ラベンダー畑の管理は働き手が必要。町内にラベンダーが増えてほしい。各家庭でラベンダーを栽培するための補助金を出してはどうか。

→ラベンダー不足は課題であり、検討したい。ラベンダーの管理に係る依頼先が高齢者事業団という点も厳しい。八景を含めた整備についても第3次の計画中に進めたい。

(加藤委員)

- ・反省点と課題が見えているので、この計画に沿って進めて行ければ。

#### 3 その他

- ・次回の審議会開催時期について、後日調整することとした。1月中旬を予定。